

意外と黒い平城宮第一次大極殿の瓦

私たちが瓦の色をイメージするとき、まず頭に浮かぶのは「いぶし銀」といった光沢のある色合いでしょう。ところが、第一次大極殿に葺かれていた瓦を見ますと、「いぶし銀」ではなく、意外と黒みがかった色合いであったことがわかります。しかも、平城宮の中でも、どういうわけか第一次大極殿の瓦だけが黒かったようです。

ではなぜ第一次大極殿の瓦が黒かったのかを調べてみますと、どうやら中国からの影響があるようです。唐の長安城にある大明宮では、「青棍瓦」という黒い瓦が用いられていたことが文献に記されています。おそらく、遣唐使が大明宮を訪れた際に、黒い瓦が葺かれた重厚な雰囲気^{せいこん}の建物に感銘を受け、帰国してから第一次大極殿にも黒い瓦を葺くように進言したのではないのでしょうか。

現在、復原される第一次大極殿の瓦の設計がおこなわれていますが、できるだけ当時の状況に近づけるため、瓦も黒みをもたせるよう、試行錯誤を繰り返しています。完成した際には、朱雀門のような「いぶし銀」の屋根とは異なる、威圧的な黒い屋根が、大極殿によりいっそうの風格を与えることでしょう。(軒丸瓦の実物は直径15.9cm)

(平城宮跡発掘調査部 林正憲)



